

平成26～28年度

“小地域で考える”福祉教育推進モデル事業  
(学童・生徒のボランティア活動普及事業)

# 報告書

笑顔の花が咲きました

地域

学校

社会福祉法人 大田原市社会福祉協議会

# 目 次

I	はじめに	1
II	福祉教育（ふくし共育）のねらい	2
III	「地域ぐるみのふくし共育」を目指して	3
IV	“小地域で考える”福祉教育推進モデル事業 3年間の取り組み （学童・生徒のボランティア活動普及事業）	4
	平成26年度事業	4
	平成27年度事業	5
	平成28年度事業	8
V	学校と地域がつながるふくし共育 ～事例集～	12
VI	効果と展望	20

# I はじめに

日本は、少子高齢化社会を迎え、世界に例を見ない急速な高齢化と人口減少により、経済、社会保障、地域社会など広範囲に様々な問題が起こっています。このような社会の中で、次代を担う子どもたちを「社会の宝」として、「社会全体で育てていく」ことが大変重要になっています。

以前は、福祉と言えば、障がいのある人や高齢者など生活に問題を抱えた人たちのことについてだけ考えることだと思われ、例えば、社会的に弱い人や気の毒な人を救済するイメージが強く残っていました。

しかし、これからは、「人々が平和で幸せに生きたい」という願い、福祉を他人事ではなく自分自身の課題として認識し捉えることが大変重要になります。

福祉教育は、全ての人がかげがえのない存在であり、子どもから高齢者まで、障がいのある人もない人も全ての人が、差別や排除されることのない社会の中で共に支え合い、生きる喜びを感じられるよう「共に生きる力」を育むことをねらいとしています。

そこで、次代を担う子どもたちへの福祉教育を「ふくし共育」と銘打ち、「“小地域で考える”福祉教育推進モデル事業（学童・生徒のボランティア活動普及事業）」に取り組んでまいりました。今までの学校や地域の取り組みを、次のステージへ向け、学校の実態や地域の特性を生かし、地域と学校が共に力を合わせ、学び合いながら、将来に向けた新しい取り組みを創造していきます。

## Ⅱ 福祉教育(ふくし共育)のねらい

福祉教育(ふくし共育)は、子どもを対象にした学校教育だけではなく、大人をも含めたすべての人を対象としています。

学校や地域でのボランティア体験、交流などの活動を通じて、自分が住む地域の身近な福祉課題に気づき、様々な人との出会いから、お互いを理解し、人は一人ひとりみな違い、尊重されなければならないことを学び、豊かな心を育みます。

学校が地域社会と連携し、地域の方、障がい当事者の方、高齢の方との出会いやふれあいから、生命の尊厳や人間の生き方、それぞれの立場や心情を思いやり、お互いに支え合うことの素晴らしさに気づき、子どもたちは人間的に大きく成長していくことでしょう。

モデル事業では、学校・地域・社協が協力して、実践しやすいふくし共育プログラムづくりに取り組んできました。身近な地域の福祉課題に気づき、様々な人たちと力を合わせながら、自分自身が地域でつながりをもって暮らしていけるように「**地域で共に生きる力**」を育むことを目標に、**ふくし「ふだんのくらしのしあわせ**」を共に考え、誰もが安心して楽しく豊かに暮らせるまちづくりを推進します。



### Ⅲ 「地域ぐるみのふくし共育」を目指して

国際医療福祉大学准教授 大石剛史

大田原市では福祉教育を、「ふくし共育」とし、地域の中でお互いに助け合い、理解し合い、学び合いながら、共に地域の福祉を実現していく取り組みとして、貴重な実践を各地域で積み重ねています。

さて、「ふくし共育」を進めていく上で大事な視点として、次のようなものが挙げられます。

第1に、具体的な地域に根差して、その**地域の中での人と人とのつながりを意識し、助け合える地域社会を目指す**、という視点です。

第2に、地域の中にある、様々な困りごと（福祉課題）をみんなで出し合い、その課題をどうすれば解決できるのか、共に考えることを通して、**地域福祉の課題を解決する学びをみんなで深める**、という視点です。

第3に、このような「学び合い・育ち合い」を通して、**地域の中で様々な人同士がお互いを理解し、お互いのことを尊重し合える、あたたかな地域社会を作っていく**、という視点です。

そして、第4に、みんなの力を合わせて、様々な地域の福祉課題を解決する方策を考え、**地域に住むあらゆる人が、地域の中で豊かに幸せに暮らすことのできる地域社会づくりを進めていく**、という視点です。

このような「ふくし共育」を進めていくためには、「ふくし共育」を学校や一部の人たちだけで取り組むのではなく、まさに「地域ぐるみ」で取り組んでいく必要があると言えます。大田原市の「ふくし共育」の取り組みは、地域と学校が連携・協働して、少しずつこの「地域ぐるみのふくし共育」の実現が図られてきています。今年度までに、佐久山地区や、紫塚地区などで、地域に根ざした、地域ぐるみのモデル事業が行われ、成果を挙げてきています。

今後、ますますこのような「地域ぐるみのふくし共育」を進めていく必要があるでしょう。「地域ぐるみのふくし共育」にするために、次のような視点から、各地域のふくし共育の取り組みを評価してみてください。

- ①「ふくし共育」の取り組みが地域の様々な人が出会い、つながりを作れる取り組みになっていますか？
- ②地域の様々な人がお互いのことを理解し、お互いのことを尊重し合えることを目指した取り組みになっていますか？
- ③地域の課題をみんなで学び合い、具体的な地域の「ふくし」のあり方を考えられる内容になっていますか？
- ④みんなで考えた地域の「ふくし」のあり方を実現するために、具体的な行動を起こすことを目指していますか？
- ⑤以上のようなことを、地域の様々な人の連携・協働で、まさに「地域ぐるみ」で行うことができているですか？

このようなことを意識することで、「地域ぐるみのふくし共育」が形づくられると思います。今後も各地域で様々な人たちが協力し合いながら、「ふくし共育」の取り組みを進めていただければと思います。

## IV “小地域で考える” 福祉教育推進モデル事業 (学童・生徒のボランティア活動普及推進事業)

3年間の取り組み (平成26年～28年)

### 平成26年度事業

#### 1 福祉教育に関する職員研修開催

平成26年6月27日 (金)

講師：国際医療福祉大学准教授 大石剛史氏

#### 2 「子どもと地域とつながるふくし共育活動例」の作成

学校と地域がつながって実施しているふくし共育の情報収集

#### 3 「平成26年度おおたわらふくし共育研修会」実施

(1) 日 時 平成27年2月5日 (木)

午後1時50分～4時30分

(2) 場 所 金田北地区公民館

(3) 出席者 98名 (参加者74名 職員24名)

(4) 内 容

##### ①講 話

「子どもたちの未来、地域の未来のために、  
福祉教育をどう変える？」

講師：国際医療福祉大学准教授 大石剛史氏

##### ②ワークショップ (ワールドカフェ)

「地域活動と子どもの学びをつなげよう！」

グループに分かれて「地域活動と子どもの学びをつなげるために、できること、  
やってみたいこと」をテーマに情報交換をした。最後に「できること」を紙に  
書いて会場に貼り出し、全体で共有しました。



地域の協力者と一緒に  
すすめていきましょう

#### 4 「中高生が考える福祉のまちづくり I N大田原」黒羽地区での開催

(1) 日 時 平成26年8月23日(火) 午前10時～午後3時30分

(2) 会 場 黒羽川西地区公民館

(3) 参加者 47名 (中学生、高校生、黒羽地区の方、障がい当事者)

(4) 内 容 「自分の地域ってどんなところ？よりよい地域を考える」

①炊き出し

②傾聴「聴くってどんなこと」

③講話「ふるさとの今昔」

④ワールドカフェ



## 平成27年度事業

### 1 平成27年度おおたわらふくし共育（福祉教育）研修会

#### (1) 日時・会場・地区・参加者数

	日 時	会 場	地 区	参加者	職員	合計
①	6月 4日（木） 午後1時30分～4時30分	湯津上庁舎	野崎・親園・ 佐久山・湯津上	50	16	66
②	6月 9日（火） 午後1時30分～4時30分	金田北地区 公民館	西部・東部・ 紫塚・金田	49	18	67
③	6月12日（金） 午後1時30分～4時30分	黒羽・川西地 区公民館	黒羽・川西・ 両郷・須賀川	33	11	44
合計				132	45	177

#### (2) 参加対象

教育関係者・生涯学習関係者・障がい当事者・ボランティアグループ  
地域（地区社協、地区見守り隊、民生委員・児童委員・ほほえみセンターなど）

#### (3) 内 容

- ①説明：「今日からはじめるふくし共育」
- ②ワークショップ：「地域福祉活動と子どもの学びをつなげよう！パート2」  
～ わくわく♥ドキドキ 作戦会議 ～



地域福祉活動と子どもの学びをつなげる福祉教育で  
「できそうなこと」「やってみたいこと」を考える

### 2 「中高生が考える福祉のまちづくりIN大田原」湯津上地区での開催

- (1) 日 時 平成27年8月25日（火）  
午前10時～午後3時30分
- (2) 会 場 湯津上地区公民館
- (3) 参加者 50名（湯津上中学校生徒、  
高校生、湯津上地区社協、  
障がい当事者）
- (4) 内 容 「伝えていこう！  
湯津上のつながり」

- ①傾聴 ②話し合いの基礎
- ③地域の方のお話 ④座談会



### 3 モデル地区での『ふくし』に関するアンケートの実施

#### (1) 調査の時期

1回目：6月      2回目：2月

※同じ調査項目を用い、福祉に対する意識の傾向や変化を見る。

#### (2) 調査対象

佐久山小・福原小      4・5・6年生児童・担任の先生  
 佐久山中・湯津上中      1・2・3年生生徒・担任の先生

**アンケート用紙 参照**

**福祉活動に関するアンケート**

◎ 地域とのつながりについてお聞きします。

1 地域で顔見知りの人はいいますか。  はい (  人くらい )  いいえ

2 地域の人とあいさつをしていますか。  はい (  人くらい )  いいえ

3 自分の住んでいる地域には、どのような人が住んでいるか知っていますか。  
 知っている  知らない  
 ↓ ※それは、どのような人ですか。

4 あなたの住んでいる地域で関心のあることは、どんなことですか。

5 地域の人に支えてもらっている、助けてもらっていると感じることはありますか。  
 ある  ない  分からない  
 ↓ ※それは、どのようなことですか。

6 地域のために活動している人を知っていますか。  知っている  知らない  
 ※それは、どのような人ですか。 ↓

◎ 福祉についてお聞きします。

7 「福祉」と聞いて、どのようなことを思い浮かべますか。

8 福祉活動をしたいと思いませんか。  したい  したくない  分からない  
 ※その理由を書いてください。

◎ 地域のことについてお聞きします。

9 自分の住んでいる地域の(1)～(3)の項目について書いてください。

1) 良いところ

2) 「おいしいな」「改善した方がいいな」など、課題だと思うところ

3) こんな地域になったらいいな

10 大人になったとき、今の地域に住みたいと思いませんか。  
 住んでいたい  住みたくない  別なところで暮らしたい  
 ※その理由を書いてください。

**福祉活動に関するアンケート**

注意：このアンケートで使用する「地域」が、あなたが勤務する学校が属する地域を指します。

◎ 地域とのつながりについてお聞きします。

1 地域で顔見知りの人はいいますか。  はい (  人くらい )  いいえ

2 地域の人とあいさつをしていますか。  はい (  人くらい )  いいえ

3 学校が属する地域には、どのような人が住んでいるか知っていますか。  
 知っている  知らない  
 ↓ ※それは、どのような人ですか。

4 学校が属する地域で関心のあることは、どんなことですか。

5 児童・生徒が地域の人に支えてもらっている、助けてもらっていると感じることはありますか。  
 ある  ない  分からない  
 ↓ ※それは、どのようなことですか。

6 地域のために活動している人を知っていますか。  知っている  知らない  
 ※それは、どのような人ですか。 ↓

◎ 「福祉」についてお聞きします。

7 「福祉」と聞いて、どのようなことを思い浮かべますか。

8 福祉活動をしたいと思いませんか。  したい  したくない  分からない  
 ※その理由を書いてください。

◎ 地域のことについてお聞きします。

9 学校が属する地域の(1)～(3)の項目について書いてください。

1) 良いところ

2) 「おいしいな」「改善した方がいいな」など、課題だと思うところ

3) こんな地域になったらいいな



### (3) 分 析

#### ①福原小学校

6月の調査では、福祉に対するイメージが「障がい」や「おじいさん、おばあさん」に限定されていましたが、2月には、「みんなの」「ふだんのくらしのしあわせ」の回答が増え、福祉の考え方に変化が見られました。

当校では総合的な学習の時間で福祉について学ぶ機会があり、その中で地域の福祉活動にふれる場面がいくつかありました。地域の民生委員・児童委員に話を聞く、見守り隊の茶話会に参加する、地区社協の食事サービスのお弁当箱にかける包紙を絵手紙で作成するなど、地域の福祉活動に関心をもつことができました。

#### ②佐久山小学校

「福祉」と聞いて思い浮かべることはという問に対し、6月は「ふだんのくらしのしあわせ」が多いが、2月は高齢者に関する回答が多くなりました。当校では、高齢者との交流、認知症サポーターの養成講座、認知症グループホームあすなろへの訪問などを行っているためと思われます。

#### ③佐久山中学校

数値が顕著に変化しているわけではないが、ぼんやりとしていた「地域の人」が福祉活動を通してより具体的な人へと変化しており、地域に関心をもってきています。

「お年寄り」から「ひとり暮らしの高齢者」「高齢者だけの家」に変化するなど、地域の課題に触れることで関心が深まりました。

地域のために活動してくれる人を知っているという児童・生徒が多くなり、地域の活動をしている人を見ていて、自分も支えてもらっていると感じています。「福祉」と聞いて、思い浮かべることでは、6月と2月での変化はあまり見られず、高齢者、障がい者や介護、手助けという回答がほとんどです。

ひとり暮らし高齢者への食事サービスへの参加や、高齢者施設の訪問、小学校のときに、ほほえみセンターの高齢者と交流、認知症サポーター養成講座を受講し、グループホームあすなろを訪問するなど、学校での福祉教育の中心が高齢者福祉であるからだと考えられます。「人を気遣うこと」「地域に関係している」「地域の人のためなもの」「みんながしあわせにくらせるような」「地域同士で助け合うこと」「みんなが助け合う社会」「住みやすいまちをつくる」「ボランティア」などの回答をしている生徒は、6月も2月も同じ生徒です。

#### ④湯津上中学校

地域への思いが強く、ほとんどの生徒が記入しています。学年が上になるにつれて、より具体的に地域に住んでいる人をとらえています。「福祉」のイメージは、お年寄りや介護、体の不自由な人という回答が多いです。福祉活動したいと答えた生徒が、6月より2月の方が多くなっています。

当校では、高齢者宅を訪問しボランティア活動をしています。また、「中高生が考える福祉のまちづくり I N大田原」に参加した生徒もあり、この調査から湯津上の文化について関心をもった生徒も多いことが分かりました。

#### (4) 考 察

4校の小学校、中学校を対象に調査を実施しましたが、福祉教育の題材として取り上げるものによって、ふくしのイメージが変わってくるのが分かりました。地域の福祉活動から学ぶふくし共育を進めています。今後、感受性豊かな子どもたちへどうアプローチできるかが重要です。

#### 4 平成27年度ふくし共育実施状況調査の実施

学校と地域がつながって実施した活動について、市内小・中学校に調査を依頼し、まとめたものを活動の参考になるよう、学校や地域等関係団体に配布しました。

活動事例 「平成27年度 ふくし共育実施状況調査」より	
小学校	中学校
1 大田原小	21 大田原中
2 西原小	22 若草中
3 紫塚小	23 親園中
4 親園小	24 金田北中
5 宇田川小	25 金田南中
6 市野沢小	26 野崎中
7 奥沢小	27 佐久山中
8 金丸小	28 湯津上中
9 羽田小	29 黒羽中
10 薄葉小	
11 石上小	
12 佐久山小	
13 福原小	
14 佐良土小	
15 湯津上小	
16 蜂田小	
17 川西小	
18 黒羽小	
19 須賀川小	
20 両郷中央小	

### 平成28年度事業

#### 1 平成28年度おおたわらふくし共育（福祉教育）研修会

(1) 日 時 平成28年6月27日（月） 午後1時40分～4時30分

(2) 会 場 湯津上地区公民館 多目的ホール

(3) 参加者 115名（参加者93名、職員22名）

地域：地区社協、見守り隊（主任）、地区民協、ほほえみセンター、生涯学習推進協議会、ふくし共育ボランティア「グループささえ」  
学校：福祉教育担当者、地域連携教員

(4) ねらい 実践に向けて動き出すきっかけづくり

各地域でのつながりづくり、地域福祉活動と生涯学習推進協議会との協力体制づくり

#### (5) 内 容

① 講話：「ふくし共育で未来の地域づくり」

講師：国際医療福祉大学准教授 大石剛史氏

※みんなが豊かに暮らせる地域づくりがふくし共育の目指すところ

② ワークショップ「地域福祉活動と子どもの学びをつなげよう！パート3」

～わくわく♥ドキドキ 作戦会議～



実際に活動するための企画のポイントを学ぶ

## 2 モデル地区の活動

### (1) 紫塚小学校「認知症に優しい地域を考えよう！IN紫塚」

- ・日 時 平成28年10月25日(火)
- ・会 場 紫塚小学校
- ・参加者 紫塚地区社協・紫塚地区見守り隊
- ・内 容 ①認知症の家族の方のお話  
②認知症の方への接し方  
③グループワーク等



グループワークの様子

### (2) 佐久山中学校「災害が起こったら、あなたならどうする？(災害図上訓練)」

- ・日 時 平成28年10月17日(月)
- ・会 場 佐久山中学校
- ・参加者 佐久山地区社協・佐久山おもいやり隊
- ・内 容 災害図上訓練(DIG)  
講師：認定NPO法人  
とちぎボランティアネットワーク  
矢野正広 氏  
① 講話「災害と助け合い」  
② DIG(災害図上訓練)  
③ まとめ



地図に書き込んでいる様子

### (3) 佐久山小学校：佐久山おもいやり隊会食会に参加

- ・日 時 平成28年8月19日(金)
- ・会 場 佐久山地区公民館
- ・参加者 地域の高齢者・佐久山おもいやり隊
- ・内 容 ①ゲームの手伝い  
②お茶出し等



ゲームを楽しむ高齢者と子どもたち

(4) 福原小学校：佐久山おもいやり隊  
茶話会に参加

- ・日 時 平成28年8月5日(金)
- ・会 場 大田原市ふれあいの丘
- ・参加者 地域の高齢者・佐久山おもいやり隊
- ・内 容 ①ゲームの手伝い  
②交流等



3 「中高生が考える福祉のまちづくり IN 大田原」大田原地区での開催

- (1) 日 時 平成28年8月23日(火)  
午前10時～午後3時30分
- (2) 会 場 トコトコ大田原・中央多目的公園
- (3) 参加者 62名(中学生、高校生、大田原東部  
地区社協、障がい当事者)
- (4) 内 容 「災害時の避難所体験から学ぼう!  
地域のために私たちができること」



公園の設備がテントに変身

- ①炊き出し準備・炊き出し体験
- ②テント張り体験(中央多目的公園)
- ③グループワーク

4 「学校と地域がつながるふくし共育プログラム」研修会

- (1) 日 時 平成29年2月7日(火) 午後2時～4時30分
- (2) 会 場 大田原西地区公民館
- (3) 参加者 市内小・中学校の福祉教育担当教員  
ふくし共育ボランティア「グループささえ」
- (4) 内 容 ふくし共育プログラムの紹介  
モデル事業で取り組んだプログラムのほか、地域の福祉課題解決のために  
児童・生徒が、地域の方と一緒に活動したプログラムの事例の紹介

5 地区社会福祉協議会へのアプローチ「地区社協研修会」

- (1) 日 時 平成29年2月14日(火) 午後1時30分～3時30分
- (2) 会 場 大田原市福祉センター
- (3) 参加者 地区社協、モデル地区、佐久山中学校教諭、紫塚小学校教諭
- (4) 内 容 ①モデル事業について  
プログラムの説明、事業に参加した地域の方や学校教諭の話など  
②講話「これからのふくし共育のあり方」  
講師：国際医療福祉大学准教授 大石剛史 氏

## 6 モデル事業成果物の作成

(1) 壁新聞・・・学校と地域がつながる「ふくし共育」を広めるため、学校、地区公民館等に配布し、掲示してもらう。



(2) 報告書・・・3年間のモデル事業の取り組みをまとめ、学校、地区社協等に配布し活動の参考にしてもらう。(本報告書)

## V 学校と地域がつながるふくし共育 ～事例集～

### 凡例

タイトル  
—学校名—

市内の小・中学校で行われている地域とつながるふくし共育活動の一部をご紹介します。

それぞれの学校と地域が、それぞれの地域性に合わせて幅広い内容のふくし共育を積極的に実践しています。

- ① つながり(誰と誰が)
- ② いつ(回数・時期)
- ③ どこで
- ④ 誰が
- ⑤ 何を
- ⑥ 取り組みの特徴・ポイント
- ⑦ 気づきと成果

※事例のイラストはイメージです



明るく楽しい福祉まつり  
—大田原小学校—

- ①大田原小学校児童・地域・大田原東部地区社協
- ②10月
- ③大田原小学校 校庭
- ④児童・大田原東部地区社協・地域の方
- ⑤大田原東部地区社協主催の「ふれあい広場」に参加(4年生が、よさこいソーランを披露。和太鼓クラブが地域の方と一緒に太鼓を披露。地域の方と一緒に折り紙や昔遊びなどで交流)した
- ⑥練習の成果を地域の方へ披露するため、目的をもって練習し、充実感を得た。
- ⑦児童は、地域のお祭りに参加することで、地域の良さを体験した。  
地域と子どもたちの連携、つながるきっかけになっている。

菊づくり体験  
—西原小学校—

- ①西原小学校児童・地域
- ②6～7月
- ③西原小学校
- ④西原小学校4年生・大田原西部地区社協
- ⑤菊づくり名人(地区社協)に苗の挿し芽や根付のやり方などを教えてもらいながら、菊づくり体験をした。
- ⑥菊づくりを通して交流ができた。
- ⑦地域の方の知恵、すばらしさ、優しさに気づくことができた。



認知症にやさしい地域を考える  
—紫塚小学校—

- ①紫塚小学校児童・地域
- ②平成28年10月
- ③紫塚小学校
- ④紫塚小学校5年生・紫塚地区社協、紫塚地区見守り隊
- ⑤地域で暮らす認知症の方のご家族の話を聞いた。地域の方と一緒にグループワークを行った。
- ⑥認知症サポーター養成講座で学んだことを生かし、認知症の方も共に暮らす地域について地域の方と一緒に考えることができる。
- ⑦認知症の方の対応や自分たちに何ができるかなどを、児童だけでなく地域の方の話を聴きながら考えられた。「やさしく接すること」を学んだ。

ミニ門松づくり  
—親園小学校—

- ①親園小学校児童・地域
- ②12月
- ③親園小学校
- ④親園小学校6年生・地域の藁細工保存会
- ⑤地域の藁細工保存会の方に指導してもらい、ミニ門松を作った。
- ⑥地域の保存会の方と交流し文化を学びながら作成する。
- ⑦地域の方と交流する機会が増えた。地域の伝承文化を知ることができた。



町探検  
—宇田川小学校—

- ①宇田川小学校児童・地域
- ②7月
- ③宇田川小学校・地域
- ④宇田川小学校2年生
- ⑤地域を歩き、地域の歴史や文化について学習した。
- ⑥自然環境など、地域の良さを知ることができる。
- ⑦児童の地域に対する興味関心を高めることができた。



ウォークラリー大会  
—市野沢小学校—

- ①市野沢小学校児童・地域
- ②6月
- ③市野沢小学校・地域
- ④市野沢小学校全校生徒
- ⑤学年をまたぐ30班を編成し、4コースに分かれてウォークラリーを行う。各ポイントで地域に関するクイズに答え、地域について学びを深めた。
- ⑥自分の住んでいる地域の良さを感ずることができた。
- ⑦実際に話を聞き、実物を見ることで、児童が地域についてよく知ることができた。

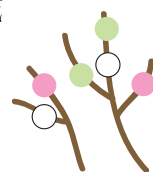


学習発表会・感謝の集い  
—奥沢小学校—

- ①奥沢小学校生徒・地域
- ②11月
- ③奥沢小学校
- ④全校生徒・地域住民
- ⑤日頃の活動の発表を、地域住民に見ていただいたり、一緒に餅つきをしたりして楽しんだ。お世話になった方を招待し、感謝の気持ちを伝えた。
- ⑥その日だけではなく、継続して地域の方とかかわる意識を養う。
- ⑦年間を通して地域の方の得意分野で協力をいただいております、お互いの良さを知ることができている。その流れで感謝の集いを開くことができた。児童は尊敬の念や感謝の気持ちをもつことができた。

とんぼだんごづくり  
—金丸小学校—

- ①金丸小学校児童・地域
- ②1月
- ③金丸小学校
- ④児童・地域の高齢者
- ⑤地域の高齢者にとんぼだんごづくりを教わりながら、交流を深めた。
- ⑥高齢者と様々な活動を通して直接ふれあうことで、敬うことの大切さを知るとともに、自分たちの地区の自然・歴史等に関心を持ち、ふるさとに対する誇りを育むことができた。
- ⑦地域の高齢者を敬う心や郷土愛を高めることができた。



地域の伝統文化を学ぶ  
—羽田小学校—

- ①羽田小学校児童・地域
- ②9月～2月
- ③羽田小学校
- ④羽田小学校3年生・八龍神社神主・地域住民
- ⑤地域の伝統文化（羽田太々神楽）について学んだ。
- ⑥神主さんに講話をいただき、貴重な道具に触れて学ぶことができた。
- ⑦地域に素晴らしい文化遺産があることを学び、興味関心が高められただけでなく、地域伝統文化の継承へ意欲が刺激された。地域の方を招いた学習発表会で発表した。

稲作体験  
—薄葉小学校—

- ①薄葉小学校児童・地域
- ②通年
- ③地域の田んぼ
- ④薄葉小学校5年生・地域の協力者
- ⑤指導をいただきながら、田植えから稲刈りまで体験した。
- ⑥地域の方に協力していただき、普段体験できない稲作体験ができた。
- ⑦丁寧に指導していただき、楽しく意欲的に活動できた。稲作について理解を深めることができた。





サケの放流  
—石上小学校—

- ①石上小学校児童・地域
- ②2月
- ③石上小学校・箒川
- ④石上小学校3、4年生・民生委員児童委員協議会・漁業組合
- ⑤地域の方とサケの卵を飼育し、稚魚を放流した。
- ⑥地域の方々と連携し、地域の自然に親しみながら活動できた。
- ⑦普段体験できないことを行い、地域の自然も親しみ、地域への理解と愛情を深められた。お世話になった方へ感謝の気持ちをもつことができた。



お弁当包みで心をつなごう  
—佐久山小学校—

- ①佐久山小学校児童・地域の高齢者・佐久山地区社協
- ②7月、11月
- ③佐久山地区社協の食事サービス
- ④児童(全校生)・佐久山地区社協(食事サービス)
- ⑤児童が俳句教室で作った俳句を、佐久山地区社協の食事サービスのお弁当の包み紙に書いた。
- ⑥学校内に掲示するだけだった俳句を、地区社協のお弁当の包み紙にすることで、地域とつながる第一歩となった。
- ⑦児童は、地域の高齢者へお弁当の包み紙として届けられることを知り読みやすいように大きな字で書くなど気遣い、また、佐久山地区とのつながりを感じることができた。

一緒にイナゴをとろう  
—福原小学校—

- ①福原小学校児童・地域・地区公民館
- ②10月
- ③福原小学校近くの稲刈り後の田んぼ
- ④児童(全校生)・保護者や祖父母・地域住民・地区公民館(高齢者学級や女性セミナー参加者など)
- ⑤イナゴとりを通じて児童と地域の方が交流する、数十年来続いている伝統行事である。
- ⑥地域の方に稲刈り後の田んぼを貸していただき、とるコツを教わりながら一緒にイナゴとりをした。イナゴは地域の方が佃煮に調理し、給食で食べた。
- ⑦児童が多く地域の方とふれあう絶好の機会。また、命の意味を知る貴重な学びの場となった。



豊年棒づくり  
—佐良土小学校—

- ①佐良土小学校児童・地域・湯津上地区社協
- ②9月(3年に1回)
- ③佐良土小学校(湯津上地区内3小学校)
- ④地区社協・児童・学校職員・保護者・地区の高齢者
- ⑤伝統行事で使う豊年棒の作り方を地域の方に教えていただいた。
- ⑥地区社協が主体となり、地区内3小学校(佐良土小学校、湯津上小学校、蛭田小学校)で開催している。
- ⑦地域の方とふれあうことで地域の方の良きや人びとのあたたかさが実感でき、自ら積極的にかかわっていかこうとする気持ちが育った。学校と地域の交流がより活発になった。

おじいちゃんおばあちゃん小学生  
—蛭田小学校—

- ①蛭田小学校児童・地域の高齢者
- ②年2回（6月・11月）
- ③蛭田小学校
- ④児童(全校生)と地域の高齢者
- ⑤学年ごとに昔の遊び・漢字テスト・かけ算九九・理科の実験などを高齢者と児童と一緒に学び、給食を食べた。

ほほえみセンターと連携し、通学している児童がいない高齢者も参加。一日小学生になり、児童と一緒に学び給食を食べた。

- ⑦児童が、地域であいさつするようになった。また、参加を楽しみにする高齢者が増えている。

地域の高齢者との交流  
—湯津上小学校—

- ①湯津上小学校児童・地域の高齢者
- ②1年中を通じて
- ③湯津上小学校・高齢者施設 他
- ④児童と地域の高齢者
- ⑤伝統行事で使う豊年棒づくりを教わったり、昔の遊びを教わり一緒に遊んだり、高齢者福祉施設を訪問し交流したりした。
- ⑥学校で委嘱している地域コーディネーターを通すことで協力者確保などがスムーズにできる。また、活動に必要な諸準備について事前に打ち合わせを持つことで学校側と相手側のやる事が明確になっている。
- ⑦地域の方と交流することで、地域は多くの人々の協力で成り立っており、自分も地域の一員として貢献することが期待されていることを知り、児童の地域にかかわろうとする意識が高まってきた。

ふれあい学習  
—川西小学校—

- ①川西小学校児童・地域
- ②9月
- ③地域
- ④全校生徒
- ⑤学年ごとに地域の高齢者と一緒にさまざまな活動を実施。（昔の遊び体験、七輪体験、こけ玉作り、まんじゅう作り）
- ⑥高齢者との接し方を考えられるようになり、さまざまな知恵を教えてもらうことで尊敬する気持ちが芽生える。
- ⑦思いやりの意識が高まった。継続して活動を行い、さらに他者に対する思いやりの気持ちを育てたい。



絵手紙で強まる地域の絆  
—黒羽小学校—

- ①児童・地域
- ②8月、12月
- ③地域
- ④児童・黒羽見守り助け合い隊・高齢者世帯
- ⑤ひとり暮らし高齢者、高齢者世帯へ児童が描いた手作りの暑中見舞、年賀状を送った。
- ⑥地域ぐるみで活動している黒羽見守り助け合い隊が架け橋となって、児童と高齢者をつないでいる。
- ⑦高齢者は児童が心を込めた発想豊かな絵手紙を毎年楽しみにしている。児童は絵手紙作りを通して、自分も地域に貢献できること、自分の行いによって喜んでくれる人がいることを実感し、自己有用感を高めることへつながる。

茶摘み体験・花車引き  
—須賀川小学校—

- ①須賀川小学校児童・地域
- ②茶摘み：4月、花車引き：6月
- ③地域
- ④須賀川小学校児童
- ⑤茶摘み：茶摘みの体験、手もみによるお茶づくり

花車引き：地区のお祭りで花車（山車）の引き手が減ってしまったので、児童に参加を呼びかけた。

- ⑥地域の人と一緒に、伝統行事に取り組み、地域の一員としての自覚を育む。
- ⑦様々な体験活動は、子どもたちが地域を知るよい機会となっている。準備や計画などから子どもたちがかかわれるよう工夫し、地域と連携していきたい。

春季運動会、ふれあい交流会  
—両郷中央小学校—

- ①両郷中央小学校、公民館寿大学、地域住民
- ②5月（春季運動会）、9月（ふれあい交流会）
- ③両郷中央小学校、両郷公民館
- ④児童、寿大学、地域住民
- ⑤春季運動会：公民館寿大学との合同運動会。地域住民と行う種目が多数あり。

ふれあい交流会：公民館寿大学との竹とんぼづくり、輪投げなど、昔の遊び体験や給食を取りながら交流を深めた。

- ⑥高齢者に対して、自然と優しい言葉や思いやりのある行動が取れるようになる。
- ⑦学校行事の中に取り入れて実施し、工夫改善しながらお互いよりよいものにしていくために地域との連携協力体制ができている。地域全体に広めていくために、関係機関と連携していく。

食事サービスボランティア  
—大田原中学校—

- ①大田原中学校生徒・地域の高齢者・大田原西部地区社協・紫塚地区社協
- ②夏休み（7月～8月）

西部地区社協4回、紫塚地区社協5回

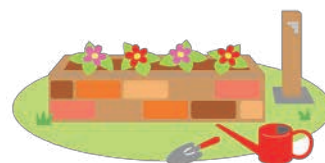
- ③市福祉センター（西部地区社協）  
市文化会館（紫塚地区社協）
- ④生徒・地域の高齢者・地区社協
- ⑤生徒がボランティアと一緒に作ったお弁当を高齢者宅に届け、声かけを行っている。

⑥地域のボランティアの方と一緒に弁当を作り、ひとり暮らし高齢者等へお届けし、直接声かけやお話をする。

⑦生徒は、自分たちが作ったお弁当を届けることで、利用者がとても喜んだことを実感し、地域の活動を知った。

絆ガーデン  
—若草中学校—

- ①若草中学校生徒・地域
- ②6～11月
- ③若草中学校近くの花壇
- ④若草中学校全生徒・PTA役員・東地区生涯学習推進協議会
- ⑤みんなで国道沿いにある花壇を整備した。
- ⑥地域と学校が一体となり、環境美化推進に取り組んでいる。
- ⑦地域の方々と苗植えなどの活動を通し、地域を身近に感じられた。自然愛護の気持ちを学んだ。



地域の方との交流  
—親園中学校—

- ①親園中学校生徒・地域
- ②6月
- ③親園中学校
- ④親園中学校3年生・地域で活動する方  
(ちかその思いやり隊、民生委員・児童委員、福祉委員)
- ⑤グループごとに地域で活動する方と交流し、その内容や感想を全体で発表した。
- ⑥自分たちが暮らす地域のために活動する方々の役割について知る。自分にも関係があるものだと知る。
- ⑦地域のための活動について知り、あいさつなど自分たちにできることを考えた。

花いっぱい運動  
—金田北中学校—

- ①金田北中学校生徒・自治会
- ②6月
- ③地域の花壇
- ④3年生有志、地域住民
- ⑤自治会主催の花壇整備活動に、生徒が参加
- ⑥地域の方から呼びかけがあり、生徒に参加を募った。生徒が直接地域の方と連絡を取り、指導いただきながら活動に参加した。
- ⑦地域のために自分は何ができるか、という目で地域を見ることができるようになった。

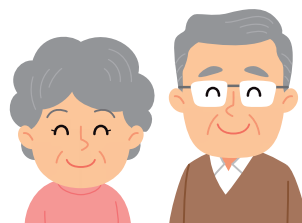


福祉について学ぶ会  
—金田南中学校—

- ①金田南中学校生徒、地域の障がい当事者
- ②9月
- ③金田南中学校
- ④3年生、地域の障がい当事者
- ⑤地域の車いす利用者、聞こえない人、見えない人をゲストにお呼びして交流会を開いた。それぞれの得意なこと、苦手なこと、生活のことなど、交流を深めながらおしゃべりした。
- ⑥障がい当事者への理解を深め、共に生きる社会のあり方について考える機会とする。
- ⑦障がい当事者であっても、自分たちと変わらず、趣味や得意なこと、日々の生活があり、「やってあげる」ではなく「ともに力を合わせていく」視点に気づくことができた。

まごころクラブ  
—野崎中学校—

- ①野崎中学校生徒・地域住民・地域の施設
- ②年間(夏休みなど)
- ③地域、地域の施設
- ④野崎中学校まごころクラブ、地域の方
- ⑤食事サービスボランティア、特別養護老人ホームの訪問など
- ⑥食事サービスボランティアでは、訪問時にお話するだけではなく、利用者個人宛のお手紙をお弁当に添えてお渡ししている。
- ⑦初めは食事サービス利用者との交流に緊張しているものの、参加した生徒からは次学年も参加したいという思いが生まれた。

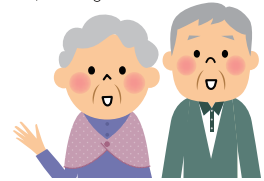


災害図上訓練 (DIG)  
—佐久山中学校—

- ①佐久山中学校生徒・地域
- ②平成28年10月17日
- ③佐久山中学校 体育館
- ④生徒(全校生)・地域の方(地区社協・区長会・思いやり隊)
- ⑤生徒と地域の方が一緒に災害について学び、地図に擬似の災害の状況を書き込む訓練等をした。
- ⑥生徒と地域の方が一緒にいつ起こるか分からない災害について学び、地域のことを知り(地域の弱さ・地形、地域の社会資源等)、災害が発生したらどうするか?について考えるきっかけとなった。
- ⑦生徒は、大人が思っているより地域をよく見ている。(どこに誰が住んでいるのか、地域にある資源を知っている)。  
災害が発生したら、中学生としてどんなことができるか、また地域を気にかけるようになった。

高齢者訪問  
—湯津上中学校—

- ①湯津上中学校生徒・地域の高齢者
- ②9月
- ③湯津上地区内(高齢者宅)
- ④生徒(全校生)・地域の高齢者
- ⑤3年生を班長とした3~4名のグループで高齢者宅を訪問し、昔の話を聞き、農作業を一緒に行った。
- ⑥交流を通してコミュニケーションの大切さを学ぶことができた。
- ⑦人のために何かを行うボランティア精神や、人を笑顔にすることなどの素晴らしさを感じる生徒が多くみられた。



福祉委員会幼稚園訪問  
—黒羽中学校—

- ①黒羽中学校生徒、幼稚園
- ②8月
- ③黒羽幼稚園
- ④福祉委員会生徒、園児
- ⑤幼稚園を訪問。自己紹介などの挨拶をしてから、じゃんけんゲームで緊張をほぐし、グループに分かれて、魚釣りゲームやビーズ遊びなどの活動を通して交流を深めた。
- ⑥地元の施設の協力を得て、福祉的活動の場を提供いただき、生徒の福祉への関心を高めることができる。
- ⑦自分たちが計画し準備したことが、必ずしも相手の興味や関心を引き出せるとは限らないこと、子どもの目線に合わせ、ゆっくり、笑顔で話しをすることの大切さを学んだ。

共同募金  
—大田原中学校、湯津上中学校—

- ①中学生と地域住民
- ②10月
- ③市内のスーパー店頭
- ④中学生と地域の方々
- ⑤赤い羽根共同募金の募金活動として、一緒に街頭に立ち、街行く人に募金を呼びかけた。



## VI 効果と展望

市社協は、地域全体で福祉教育（ふくし共育）を推進する体制づくりを目的に、平成26年度からの3年間、「“小地域で考える”福祉教育推進モデル事業（学童・生徒のボランティア活動普及事業）」に取り組み、改めて“ふくし共育には何が必要か”を考えながら進めてきました。これまでの「ふくし共育」は、学校と市社協だけで進めてきた印象が強かったと思います。しかし、次代を担う地域づくりのための「ふくし共育」には、“地域子どもたちを地域で育てよう”と熱い思いをもつ地域の人たちと一緒に取り組むことが、子どもたちにとってとても重要です。

モデル事業に取り組んだ成果として、次のことがあげられます。

- ①学校（教員・児童・生徒）と地域の方と、顔の見える関係づくりを進めることができた。
- ②地域が、「ふくし共育」を子ども達と共に進めていくという意識が高まった。
- ③学校での「ふくし共育」で、擬似体験に代わる新しいプログラムを開発提案することができた。
- ④プログラムを通じて、地域の課題を子ども達と地域の方で共有することができた。
- ⑤学校と地域がつながることで、それぞれがメリットを実感している。

今、地域では、人と人のつながりの希薄化が問題となり、社会的に孤立して生活上の問題を抱えている方が増えています。「何とかしたい」と思っている、「助けて！」と言えず、問題から脱することができず、自己重要感、自己肯定感をもてずにいる人が多くいることも現実です。

大田原市では、安心生活見守り事業などの展開により、地域のつながりをつくり直すことを進めています。声をあげられない人を排除することなく、受け止められる地域の基盤をつくりあげていく活動を通じての気づきや学びがふくし共育なのです。

大田原市に住む子どもたちが、様々な人との出会い、つながりの中から学び合うことで、**地域に愛着**をもつことができます。市社協では、「ここに住んでいて良かった」「将来も住み続けたい」と、誇りに思える地域づくりに、子どもたちがかかわっていけるように支援していきたいと思えます。

平成29年度からは、3年間のモデル事業での取り組みを市内に広げていくために「学校と地域がつながるふくし共育（福祉教育）プログラム」を推進していきます。具体的には、これまで学校の福祉教育で多く取り組まれていた擬似体験を、地域の福祉課題解決のプロセスから学ぶふくし共育プログラムへと移行していきます。

市社協では、学校への周知とプログラム紹介、新年度の取り組みの意向調査を行いました。それをもとに、地区社協との調整を行っていきます。また、地区社協の研修会でふくし共育についての研修を行い、地域の協力体制づくりを進めていきます。

学校、地域、社協が、一緒に「ふくし共育」を進めていくことが「ふくしのまちづくり」につながっていきます。みんなで地域を良くするために、さらなるご協力の程よろしく願いいたします。



平成26～28年度  
“小地域で考える”福祉教育推進モデル事業  
(学童・生徒のボランティア活動普及事業)  
報告書

平成29年3月発行  
社会福祉法人大田原市社会福祉協議会

